

令和4年度 板橋区立志村第二中学校 授業改善推進プラン

教科名

数学

	学力調査・体力調査・定期考査等の分析	指導方法の課題	授業革新に向けての具体的な手立て
7 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・入学直後に行った小学校での既習事項の確認テストにおける正答率では、立体の体積を求める問題で27%、サイコロの展開図を組み直す問題で5%と立体に対する理解が低いことが分かる。また、簡単な小数計算においても69%であった。 ・定期考査では思考を求める問題の正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・立体について扱うのが第1学年の最終章のみであるため、継続的な指導が難しい。小数計算については中学数学においては文字や整数に直して扱うことが増えるため、理科などと連携していく必要がある。 ・数学的な結果を解釈し、事柄の特徴を数学的に説明したりできるようにするため、課題解決型学習への取り組みが今後の課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体物を利用し立体についての理解を図ると共に、デジタル教科書を用いて、多面的な立体の見方を養う。 ・生徒の習熟の程度に応じた学習を定着させる。 ・単元の導入や課題学習を通して、数学の有用性を図る。
8 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査において、80点以上約30%、20点以下が約8%という結果だった。 ・2年生になり、学習に対する意欲が出てきており、連立方程式などの計算問題にもよく取り組んでいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決型学習にたいする取り組みが今後の課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の習熟の程度に応じた学習を定着させる。 ・電子教科書・書画カメラを活用することで、生徒がより問題に意欲的に取り組めるようにする。 ・単元の導入や課題学習を通して数学の有用性を図る。
9 学 年	<p>全国学力学習状況調査の結果から、正答率は領域はA数と式49.2%、B図形42.7%、C関数33.6%、Dデータの活用52.7%、観点は、『知識・技能』52.8%、『思考・判断・表現』31.6%となっており、東京都及び全国の平均を下回ってしまった。変化の割合や言葉の意味などが定着していないことがわかった。</p>	<p>変化の割合だけの練習問題を集中して行うこと、機械的に求めるだけでなく意味も重視して指導を改善する。その際、変化の割合を視覚的に理解できるように、ICT機器を利用する。</p> <p>また、座標など、関数の基本的な知識の定着させるために、範囲を狭く定めた小テスト等を行いフィードバックできるように改善する。単調な出題の仕方にならないよう気を付けて、本質的に関数の知識・技能を身に付けられるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストをこまめに行い、結果をフィードバックさせる。 ・新しい単元に入るときは、既習事項の復習を行う。 ・苦手な生徒が黒板を写すことに一生懸命になって、自力で解くことをおろそかにしないように教材を工夫する。